2011 年 1 月 31 日

会社名　エルピーダメモリ株式会社
代表者名　代表取締役社長 坂本幸雄
（コード番号 6665 東証第 1 部）
問い合わせ先　執行役員　福田岳弘
（TEL 03－3281－1500（代））

PowerchipのPC DRAM生産品の全量購入を基本合意

Powerchipは自社ブランドのDRAM販売から撤退

エルピーダメモリ株式会社（以下、当社）と当社の生産委託先である Powerchip Technology Corporation（台湾、以下、Powerchip 社）は、従来 Powerchip 社が自社ブランドで生産・販売していた DRAM の全てを当社が購入し、エルピーダブランド製品として販売することで基本合意いたしました。今後早期の正式合意に向けて、協議を進めてまいります。

現在、当社は Powerchip 社のパソコン（PC）向け DRAM 生産量（300mm ウェハで月産約 8 万枚）の半数を購入する生産委託契約を同社と締結しています。一方、Powerchip 社は当社よりライセンスを受け、残り半数の生産分を自社ブランド製品として販売しています。これに加え同社は、当社との合弁会社である Rexchip Electronics Corporation (台湾　以下、Rexchip 社)の DRAM 生産約 8 万 5 千枚／月のうち、約 3 万枚を購入し自社ブランドで販売する権利を有しております。

正式合意後には、Powerchip 社はこれらの能力に基づき従来どおり生産を継続しますが自社ブランドでの販売は今後行わず、当社が Rexchip 社における生産品の同社購入分を含む全ての DRAM 製品の提供を受け、今後当社ブランド製品として販売いたします。

今回の合意により、当社は新たな設備投資を行わずに PC DRAM の生産能力を拡大することが可能となります。生産プロセスの微細化は Powerchip 社が行いますが、同社のファブは当社の生産プロセス技術に合わせた装置を導入しており、比較的少ない設備投資額で最先端プロセスへの転換が可能です。

更に、DRAM 市場では現在、スマートフォンやタブレット PC に搭載される低消費電力

型の Mobile DRAM の需要が急増しており、当社広島工場ではこの高付加価値製品の増産を進めていますが、そのため PC DRAM の生産は縮小しております。この縮小分を補い、PC DRAM 市場における当社のプレゼンスを維持、向上させるためにも、Powerchip 社への生産委託を拡大することは、非常に重要です。

Powerchip 社は、当社向けのファンダリ（受託生産）を拡大するとともに、他の半導体製品のファンダリサービスと顧客ベースを強化することで、今後はファンダリモデルへの事業転換を図ります。また両社は、今後の Powerchip 社の既存顧客のサポートについても、検討してまいります。

両社は、それぞれの事業運営の向上を図ることが可能となるこの度のウィンウィンの合意に共に満足しています。これにより、エルピーダは技術開発、マーケティング及び販売、Powerchip 社は高い生産性と量産技術というそれぞれの中核事業により注力することが可能となります。今後も両社はこれまで以上に協力関係を強化し、顧客満足の向上を図ってまいります。

以上

ニュースリリースに掲載されている情報は、発表日現在の情報です。その後予告なしに変更されることがございますので、あらかじめご了承ください。

＜報道関係からのお問い合わせ先＞
エルピーダメモリ株式会社
F&A Office パブリックリレーションズグループ
広報担当　坪井・齋藤・鶴巻
TEL：03-3281-1500
E-mail：press@elpida.com